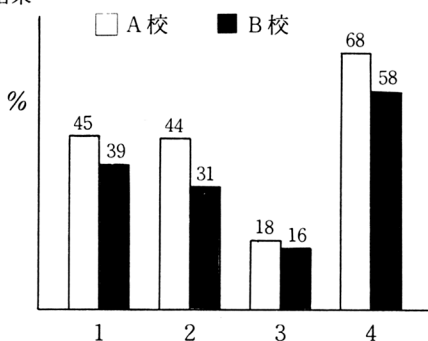


調子の変化に気づかないままに○印をつけたと思われるものが目立つ。3番は作問そのものに問題があったと考えられる。つまり、へ長調を決定する変口があまりにも短時間（短音符）であったため、きき流してしまったようである。また、○×を反対につけたものがみられたことは、解答方法にまずさがあり、混乱したようである。

A のまとめ

以上の小問を問題番号毎に集計してみると、下表のような結果となる。

結果



A・B校とも調性感については、かなりの能力を有するが、聴音から記譜へと正答率が低くなっていく傾向がみられる。

B 拍子・リズム

(問題番号ー5)

これは、何拍子の曲かあてる問題です。2拍子は2，3拍子は3，4拍子は4，とかいてください。1回ずつひきます。

1

2

3

4

5

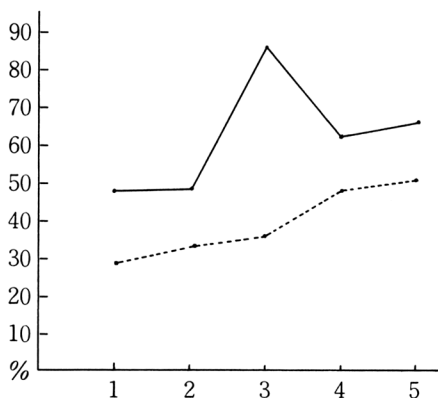
[解答らん]

問題5 何拍子の曲か、あてる問題。

- ※ 2拍子は →2
- ※ 3拍子は →3
- ※ 4拍子は →4

問題	1番	2番	3番	4番	5番
	2	2	3	4	3

結果



考察

2拍子や4拍子と対比させることによって、3拍子に対する拍子感を知ろうとした問題で、5番を除いては、すべて既習教材でありながら1・2番の2拍子が判別できないのは、単に楽譜のうえから理解しているものが多く、耳から受けとめることになれていない結果と思われる。A校の3番が高い正答率を示したのは、2拍子の次に演奏されたためと推測